

しじみ安定生産対策調査事業 ーヤマトシジミ現存量調査ー

(要約)

蛸名 政仁、相坂 幸二、静 一徳

目 的

本県内水面漁業の重要資源であるヤマトシジミの資源動向を把握する。

材料と方法

1. ヤマトシジミ現存量調査

平成 25 年 7 月から 9 月に小川原湖と十三湖、及び高瀬川において、ヤマトシジミ現存量調査を実施した。

結 果

1. ヤマトシジミ現存量調査

1) 小川原湖

湖内全体の現存量は、漁獲サイズとなる殻長 18.5mm 以上の個体が約 7,700 トン(昨年 6,900 トン)、漁獲サイズに達しない殻長 18.5mm 未満の個体が約 15,700 トン(昨年 15,500 トン)、合計 23,400 トン(昨年 22,400 トン)と推定された。

2) 十三湖

湖内全体の現存量は、漁獲サイズとなる殻長 18.5mm 以上の個体が約 800 トン(昨年 2,000 トン)、漁獲サイズに達しない殻長 18.5mm 未満の個体が約 5,700 トン(昨年 7,900 トン)、合計 6,500 トン(昨年 9,900 トン)と推定された。

3) 高瀬川

調査水域全体の現存量は、漁獲サイズとなる殻長 18.5mm 以上の個体が約 133 トン(昨年 124 トン)、漁獲サイズに達しない殻長 18.5mm 未満の個体が約 162 トン(昨年 168 トン)、合計 295 トン(昨年 292 トン)と推定された。